

# 鶴岡市における絹織物関連の取組について

平成 29 年 7 月  
鶴岡市商工観光部

## 1. 「日本遺産」認定

「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」

平成 29 年 4 月 28 日、本市が提案したストーリー「サムライゆかりのシルク 日本近代化の原風景に出会うまち鶴岡へ」が「日本遺産」に認定された。昨年度に認定された「自然と信仰が息づく『生まれかわりの旅』～樹齢 300 年を超える杉並木につつまれた 2,446 段の石段から始まる出羽三山～」に続き、鶴岡では二つ目の日本遺産となる。

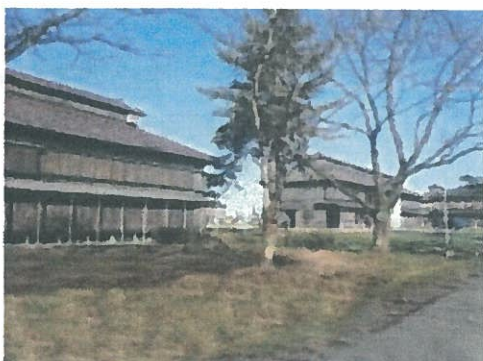
### ◇ ストーリー

山形県鶴岡市を中心とする庄内地域は、旧庄内藩士が刀を鋤に替えて開拓した松ヶ岡開墾場の日本最大の蚕室群をきっかけに、国内最北限の絹産地として発達し、今も養蚕から絹織物まで一貫工程が残る国内唯一の地域である。

鶴岡市では、松ヶ岡以外にも六十里越古道沿いの田麦俣集落に、四層構造で暮らし・養蚕などが一つの建物にまとまった多層民家が現存しているほか、明治時代創業の精練工場があるなど、絹産業の歴史、文化を保存継承するとともに、新たな絹の文化価値の創出にも取り組んでいる。

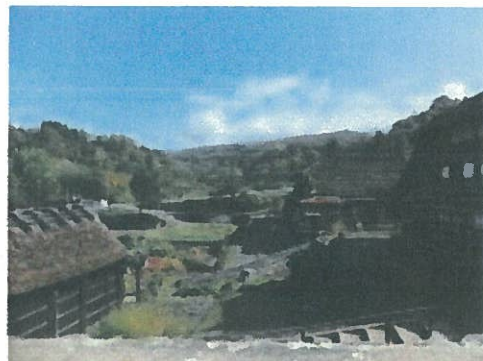


◇ 構成する主な文化財



松ヶ岡開墾場

旧庄内藩士が開墾した広大な用地の中心地であり、史跡地内には開墾本部として利用した「本陣」や、瓦葺上州島村式の三階建て「大蚕室」5棟が現存する。



多層民家(旧遠藤家住宅)

明治時代の中頃、現金収入の源として養蚕が盛んになり、民家の二階以上が養蚕の場所として使用されるようになった。採光と煙出しのために「高はっぼう」という高窓を設け、その形から「兜造」と呼ばれる。



旧西田川郡役所(致道博物館)

郡役所として明治 14 年に建てられたもので、当時、桑植付に対する資金貸付、繭糸品評会の開催や養蚕指導を行っていた。現在は市内にある「致道博物館」内で考古学や明治文化の資料等を展示している。



旧風間家住宅丙申堂

鶴岡の絹織物産業に対して支援を行った風間家 7 代目幸右衛門(織物会社の社長も務める)が住居と営業の拠点として建築。約 200 年前の武家門や、約 4 万個の石が置かれた「石置屋根」等が特徴。

## 2. 須藤玲子氏

### 『SCRAPS : ファッション・テキスタイル・クリエイティブの再生』展

山形県鶴岡市発のブランド「kibiso」のテキスタイルデザインを手掛ける須藤玲子氏が、世界を代表するデザイナー3人のうちの1人に選ばれ、ニューヨークの権威ある美術館で「kibiso」のテキスタイル展示を行った。

会期：2016年9月23日（金）～2017年4月16日（日）

会場：クーパーヒューイット・スミソニアン・デザインミュージアム（ニューヨーク）

- ◇ 『SCRAPS』展は、テキスタイル産業のイノベーションにスポットを当て、3人のテキスタイルデザイナーの仕事を紹介するもの。イタリアのルイーザ・チェペーゼ氏、アメリカのクリスティーナ・キム氏と共に、日本から須藤玲子氏が選ばれた。その名のとおり、もともと廃棄されていたもの＝スクラップスを素材としてデザインされたテキスタイルがテーマ。
- ◇ オープニングレセプションには2千人が参加、また会期中は30万人を超えた来場があり、大好評を博した。また、ミュージアムショップで販売していたストールは人気ですぐに売り切れたため、追加発注があった。
- ◇ 『SCRAPS』展の好評を受け、同展の巡回展示や kibiso 製品の展示等が世界各地の美術館等で行われる予定である。

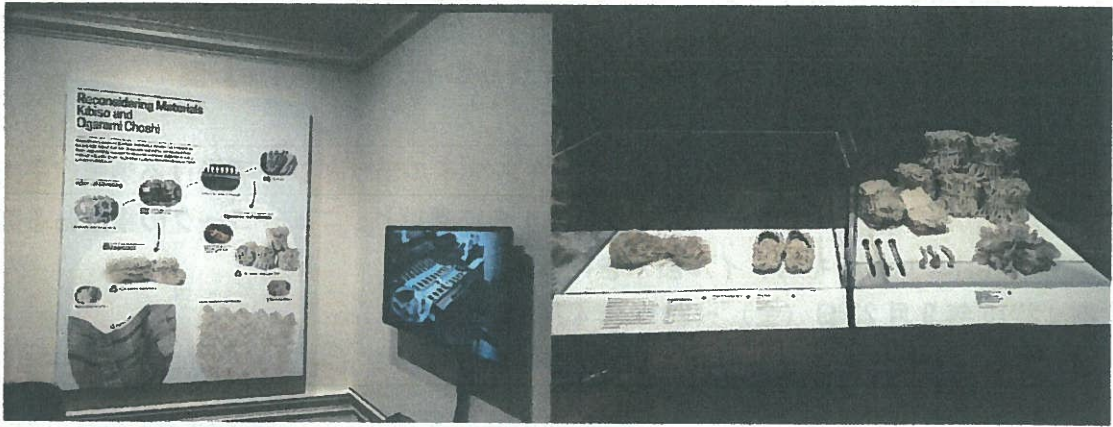
#### ・『SCRAPS』展

ワシントンD. C. テキスタイル美術館（2017年9月2日～2018年1月7日）

#### ・「KIBISO展」

ストックホルム Vaxjo Art Hall（2017年9月21日～10月30日）





須藤玲子氏（平成 28 年 6 月 24 日 松ヶ岡開墾場本陣での記者会見にて）

- ◇ このたびの「日本遺産」認定を記念して開催したイベントでは、松ヶ岡開墾場二番蚕室にて、『SCRAPS』展の記念展示と鶴岡シルク製品の展示・販売を行った（平成 29 年 5 月 3 日～7 日）。



### 3. 新製品開発

鶴岡シルク（株）は、他地域のデザイナーや繊維関連業者、鶴岡商工会議所と組み、「鶴岡シルク」の新しい魅力を発信する新製品を開発。平成 29 年 5 月 2 日に記者発表を行った。

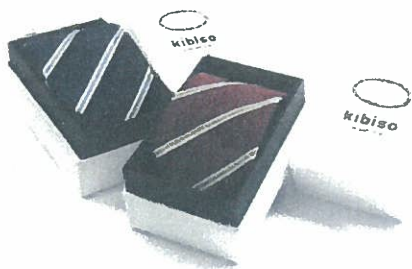
#### 1) 他産地と連携したウェア

- ◇ 「kibiso」ブランドはこれまで服飾小物等を中心としたラインアップだったが、ライフスタイルをトータルに提案するため、ウェア等の新商品開発を行った。経済産業省の「平成 29 年度ふるさと名物応援事業補助金」を活用。
- ◇ デザインは神奈川県デザイナーに依頼し、織り・編みなどは他産地と連携し製作。30 代以上の幅広い年齢層をターゲットにした。百貨店での販売から始め、将来的には地元での販売も見込む。



#### 2) 贈答用ネクタイ

- ◇ 鶴岡商工会議所では、日本商工会議所の事業を活用し、鶴岡シルク（株）とキビソを使用したシルクネクタイの開発を行った。キビソ糸を約 3 割活用したシルクウール生地で、高級感を持たせたデザインであり、専用の箱も併せて開発し、贈答用の需要を見込んでいる。
- ◇ 箱は、蕨をイメージした生成り色であり、受け取った人にその後も多用途に使ってもらえるよう、ナチュラルかつ高級感のあるデザインとした。デザインから製作まで、全て地元企業が手掛けた。





## ■結城紬の歴史

遠く古代、崇神天皇の御代・多屋命（おおねのみこと）という人が茨城県久慈郡で始めた長幡部紬（ながはたべのあしぎぬ）と呼ばれる織物が結城地方に伝わり結城紬になりました。

鬼怒川の清流をたたえる結城地方は古代から農耕で開けており、桑の生育に適したこともあり養蚕が盛んでその副産物として紬が織られるようになったのです。

結城氏が北関東で勢力を伸ばしていた鎌倉・室町時代には「常陸紬」と呼ばれ、鎌倉管領及び室町幕府に献上される著名な物産となっていました。

江戸時代にこの地を治めた幕府の代官・伊奈備前守忠次（いなびぜんのかみただつく）は結城紬の振興・改良に努め、「結城縞紬（ゆうぎしまつむぎ）の名が全国に知られるようになり、その名声は当時の百科事典といわれる「和漢三才図会」に最上品の紬として紹介されました。

## ■結城紬の特徴

永年にわたり多くの先人が創意工夫を重ねてきた結城紬…全工程が手作業で行われ、技術伝承者による「糸つむぎ・絹くり・地機織り」の3工程は昭和31年に「国重要無形文化財」に指定され、平成22年には「ユネスコ無形文化遺産」に登録されました。日常での使いやすさと着心地、着込むほどにしなやかに肌になじみ、新たな風合いを生む結城紬は長く着続けることさらに魅力を増します。



## ■伝統工芸館について

昭和59年6月に結城市の伝統産業の拠点施設として開館しましたがこの度、国の地方創生加速化交付金を活用して内部改修を行い、平成29年2月に結城紬の総合案内所としてリニューアル・オープンいたしました。結城紬の歴史を学ぶとともに3工程の見学や体験もできます。



## ■施設詳細

住所：茨城県結城市大字結城3018-1

電話番号：0296-32-1108

（茨城県本場結城紬織物協同組合）

開館時間：10～16時（12～13時休憩）

休館日：水曜日

料金：入館無料（持ち帰り体験は有料）

## ■アクセス

○電車をご利用の場合：

JR水戸線・東結城駅より徒歩5分

○お車をご利用の場合：

佐野藤岡ICから国道50号バイパス経由で約40分

桜川筑西ICから国道50号バイパス経由で約30分



発行：結城市商工観光課  
住所：茨城県結城市大字結城1447  
電話：0296-32-1111（代表）  
FAX：0296-32-7123



結城市伝統工芸館  
公式サイト

# 結城市伝統工芸館

Yuki City Traditional Crafts Center





### 和の出会い

デザイナー等のご協力を  
得て魅力的な商品として  
展開しています。  
和の空間を演出し、ゆっ  
くりとおくつろぎいた  
だけます。



さへより受け継ぐ  
最高級絹織物～結城紬～  
日本の伝統的工芸品である  
結城紬の魅力をを感じるひととき

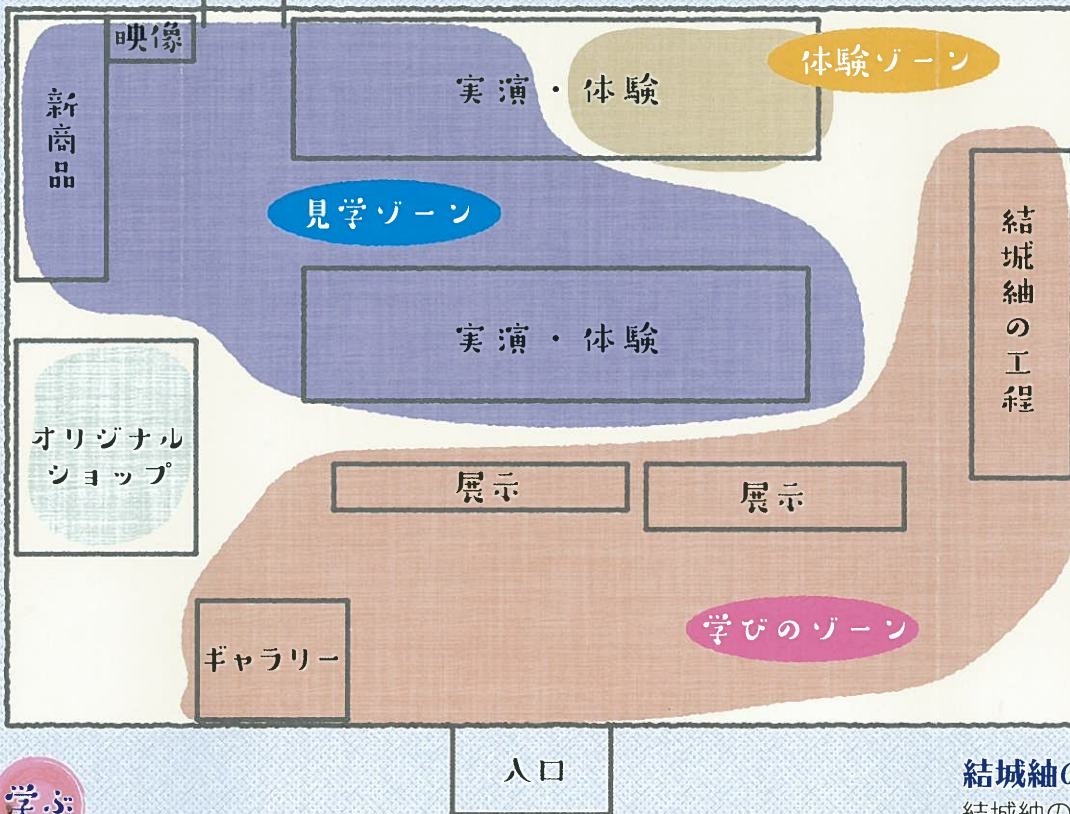
### 地機織りで自分だけの オリジナル品を作ませんか？

伝統工芸士によるアドバイスを  
受けながら、  
結城紬をあなたの手で体験  
できます。



### 結城紬の小物に出会う

オリジナルショップでは伝統技術が  
おりなす商品はもちろんのこと、現  
代のライフスタイルにあった商品も  
取りそろえています。



### 本物の技に出会う

結城紬の職人の技に出会える場所  
です。ひとつひとつ細かい実演をお  
楽しみいただけます。



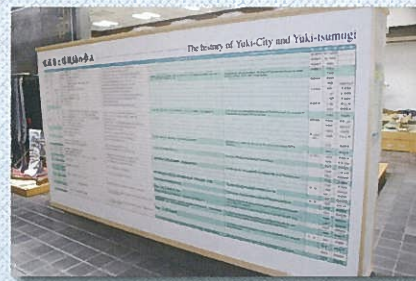
### 技に出会う

伝統工芸士によって創られた着物・  
反物が楽しめます。  
その他、様々な企画展示を予定して  
います。



### 結城市、結城紬の 歴史に出会う

結城紬の歴史がゆったり  
と流れる空間です。



### 結城紬の工程に出会う

結城紬の制作工程を知って道具たちを  
見ることができます。



# 結城紬

をあなたの手で

結城紬の魅力に触れる

地機体験

手つむぎ糸作り、地機織りを体験しながら自分だけのオリジナル品が作れます。

国認定の伝統工芸士が丁寧に指導いたします



平成29年1月7日(土)からスタート  
毎週土曜・日曜日 ●電話にてご予約ください。

要予約

使用台数  
2機



コースター

10cm×10cm / 2時間程度

午前コース → 9:00~12:00

体験費

午後コース → 13:00~16:00

1,500円(税込)

※作ったコースターは当日お持ち帰りが可能です。

使用台数  
1機



テーブルセンター

26cm×26cm / 4時間程度

1日コース → 9:00~16:00

体験費

※作ったテーブルセンターは当日お持ち帰りが可能です。

4,000円(税込)

お問い合わせ先

茨城県本場結城紬織物協同組合

〒307-0001 茨城県結城市結城 3018-1

TEL.0296-32-1108

■営業時間 / 9:00~17:00  
■定休日 / 水曜日



# 足利花火大会 特別企画

8月5日(土)限定

## 浴衣レンタル着付けプラン

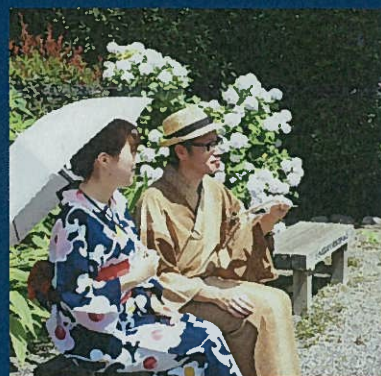
### ◆プラン◆

- 女性 ¥4,000 (浴衣レンタル・着付け・簡単なヘアアレンジ)  
男性 ¥3,000 (浴衣レンタル・着付け)  
カップル ¥6,500 (女性プラン1名・男性プラン1名)

通常プランより500円お得♪

### ◆予約から返却まで◆

- 予約 お電話にて予約 (足利まち歩き事務局 0284-41-8201)  
【着付の時間帯】①14:00~14:30 ②14:30~15:00  
③15:00~15:30 ④15:30~16:00 ⑤16:00~16:30
- 当日 来館→お支払い→浴衣を選ぶ→着付け→ヘアアレンジ→出発  
※着替えた後の荷物はお預かり可能です。ただし返却は翌日になります。  
※当日は浴衣のままご帰宅ください。
- 返却 翌日(8月6日)12:00までに足利まちなか遊学館へご返却ください。



### ◆持ち物◆

- 下着 (上:襟の開いたTシャツやキャミソールなど  
下:ステテコやレギンスなど)
- 履物 (下駄やサンダル)
- その他 浴衣にあわせたい小物 (浴衣用のカバンやうちわなど)

### ◆着付け場所◆

足利まちなか遊学館

住所: 〒326-8202 足利市通1丁目2673-1  
電話: 0284-41-8201(担当:足利まち歩き事務局)  
E-mail: yugakukan.kimono@gmail.com

詳しくはこちらを  
ご覧ください。



Facebook  
<http://facebook.com/ashikagamachiaruki/>



# おやま 本場結城紬 クラフト館で やっています

本場結城紬に  
触れてみよう!

## 1 コースター織り体験

～ 本場結城紬を自分で織ってみよう!～

〈日 程〉 毎月第1・第3日曜日

〈時 間〉 10:00～16:00(最終受付 15:00)

〈参加費〉 1,000円

※一度に最大2名までのため、予約優先となります。  
※1回の平均体験時間は約1時間です。

## 2 糸つむぎ&地機織り実演見学

～ 熟練の技を身近で見えてみよう!～

〈日 程〉 毎月第1土曜日

または、10名以上の団体のみご希望の日を  
1週間前までに予約可能

〈時 間〉 ①10:15～11:15 ②11:30～12:30  
③13:30～14:30 ④14:45～15:45

団体予約は10:00～12:00または14:00～16:00

※団体予約は、10名未満の場合は受付できません。  
※糸つむぎ&地機織りのうち、片方しか実演していない日もありますのでご了承ください。



## 3 本場結城紬着心地体験

～ 着付け無料! 本場結城紬を着てみよう!～

〈日 程〉 毎週火曜日～日曜日

〈時 間〉 10:00～18:00 ※要予約

※街歩きをされる場合は、18:00までにクラフト館へ  
ご返却ください。

※長襦袢、足袋の貸出を希望される場合は、クリーニング代  
実費をご負担いただきます。(2,000円程度)



【お問い合わせ】

おやま本場結城紬クラフト館 栃木県小山市中央町3丁目7-1 ロブレビル1F  
開館時間 10:00～19:00 ☎0285-32-6477

YAMA MAINICHI

# 小山毎日

発行所 小山市城山町二丁目二二番地 江田新聞店 電話 22-0498

印刷所 小山市大塚町一丁目一十一番地 なかだ新聞店 電話 25-1540

（主な取組）  
 日本経済新聞  
 下野新聞  
 スポーツニッポン  
 その他

## 小中一貫校 21年春予定 豊田南、北小統合で

小山市は、市立豊田南小（児童数180人）と豊田北小（同119人）を統合して小学校を新設し、市立豊田中との小中一貫校として整備する方針を決め、基本計画を策定した。新設する小学校は、2021年4月に開校予定で、豊田中の北側に隣接する農地約2.9ヘクタールを整備。施設隣接型の小中一貫校となる。

00万円（造成工事費を除く）。開校1年目の21年度は、児童数約240人、8学級を見込んでいます。

統合により通学路が変更されるため、スクールバスの導入や交差点の改良、歩行者空間の確保などを検討する方針。新設校の名称は、アンケートなどで地域の意見を聞き、全国の事例も参考に検討するとしている。

- ＜施設分離型＞  
 宇都宮市（全校）  
 那須塩原市（義務教育学校を除く全校）  
 小山市（義務教育学校を除く全校）  
 栃木市（17年度から全校）  
 大田原市（17年度から2例、18年度から全校）
- ＜施設隣接型＞  
 ※小山市・絹義務教育学校  
 小山市、豊田地区の新設小と豊田中（21年春に開校予定）
- ＜施設一体型＞  
 ※那須塩原市・塩原小中学校  
 日光市・栗山小中学校  
 <18年度以降の導入を検討>  
 佐野市、那須烏山市、那須町、下野市  
 ※は義務教育学校。17年3月時点の県教委の調査などを元に集計

### 県内市町の小中一貫教育の状況

今回小学校を新設する豊田地区は、児童数の減少傾向が続いており、14年度に市教委と地元住民や学校関係者が地域における学校の在り方を検討。議論の結果をふまえて、今年3月に市教委が基本計画をまとめた。

市教委によると、19年度中の着工を目指し、事業費は約22億6700万円を見込んでいます。

や規模の適正化を進め、地域間に生じた教育機会の格差を正に努める。として、

◇4市は全小中で連携 那須塩原など義務教育学校も、原など義務教育学校も、少年少女など社会状況の変化に伴い、小中学校年代の教育は、地域の実情をふまえた創意工夫が求められている。近年は義務教育の「9年

間の学び」の連続性が重視されており、県内でも学校間のハード、ソフト両面での連携が広がっている。

県教委などによると、県内では宇都宮市、那須塩原市、小山市、栃木市が市内全ての小中学校で「小中一貫校」として独自のカリキュラムを作り、連携を図っている。日光市や大田原市でも今年度から一部の学校をモデル校として、小中一貫教育を進めている。

近年は全国的に小中一貫教育を推進する動きが加速し、昨年4月には小中一貫教育を制度化する改正学校教育法が施行された。現行の小学6年、中学3年の学年の区切りを「4・3・2」「5・4」など、柔軟に変更できる「義務教育学校」も設置できるようになった。学校環境の変化によって不登校などの問題が起きている「中一ギャップ」の解消などにつながるという見方もある。県内では4月から、那須塩原市と小山市で二つの義務教育学校が開校した。2020年には佐野市でも新たな義務教育学校が創設される予定とされている。

小中一貫教育では、小中学校が離れた場所に設置された「分離型」併設された「隣接型」、同じ校舎で学ぶ「一体型」がある。県内はほとんどが分離型で、現在の小中学校の組織や運営を維持しつつ、連携して

一方、小中一貫教育を視野に学校の統廃合が進むと、きめ細かい教育を受けられなくなるのではといった慎重な意見もある。県教委学校教育課は「必ずしも県として小中一貫教育を推進するわけではないが、導入を目指す自治体があれば、支援できる体制を整えていきたい」としている。

### ユネスコ無形文化遺産 「作れない」危機

本場結城紬、伝統紡いで 一貫生産へ、小山市が後継者育成 小山市などが主なる生産地の高級絹織物「本場結城紬（つむぎ）」の原材料である「袋真綿（ふくらまわ

た」の生産者不足が深刻化する中、小山市は今年度から新たな担い手を育成するため講習会を開催する。主に福島県から購入していた袋真綿を自前で賄う一貫生産体制を目指す試みで、既に伝統技術に触れる体験会も開催。国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産にも登録された伝統を紡ぎ、「小山ブランド」の再生も図る。



永田順子（中央）の指導をむき、子どもたちが真綿のかけに取り組み。講習会に参加する子どもたち。

本場結城紬を取り巻く環境は時代の変化に伴い、厳しさを増している。和服離れが進んだほか、景気低迷により高価な着物は需要が少なくなった。2010年11月にユネスコの無形文化遺産に登録されたもの、作り手の高齢化や後継者不足により、近年は「作れない」以前に「作れない」危機に直面。16年度の県内の生産者数は30軒で、1977年のピーク時の約30分の1まで激減している。

こうした中、小山市は繭から袋真綿をつくる伝統的な生産技術「真綿かけ」の体験会を5月23日に開催した。真綿かけは糸を紡ぐ前段階の重要な作業だが、現在市内では、ほとんど実施されていない。袋真綿の購入先である福島県伊達市保原町も真綿かけの後継者不足に悩んでおり、自前の生産者育成は避けられない課題だった。

（同）などの文化財のほか、薬師如来坐像や栃木市西方町の薬師堂が所蔵する「鉄造薬師如来坐像」（国指定重要文化財）など普段は見られない彫刻や工芸品なども特別公開される。学芸員や観光ボランティアが案内する施設もある。

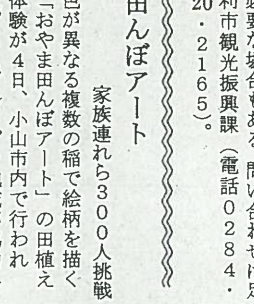
史跡などは6月11、30日の通常で公開されるが、彫刻などの特別公開は週末中心の期間限定。施設によって公開日も異なる。問い合わせは足利市観光振興課（電話0284-20・2165）。

小山市は13年度から「復興振興5カ年計画」を実施中で、後継者育成や一貫生産体制作りを取り組んでいる。市工業振興課によると、16年の本場結城紬の年間生産反数は1200反で、ピーク時（1980年）の約25分の1に減少。それでも15年からは微減で、急激な減少傾向には歯止めがかかったという。

同課は今年度中に第2期5カ年計画（18～22年度）を策定する予定で、「20年東京五輪に向けた『和装振興』の流れにも乗って、本場結城紬の知名度も上げていきたい」と意気込んでいる。

来月、小山市など7市町の26件2018年4～6月にJRグループと地域が協力して展開する大型観光企画「本物の出会い栃木 デスティネーションキャンペーン（DSC）」のPR企画として、県南7市町で6月、文化財が特別公開される対象は、小山市の須賀神社の朱神輿（みこし）（県指定文化財）など計26件。事務局は「文化財は地域の宝各地をくまなく見てほしい」と話している。

田んぼアート 家族連れら300人挑戦 色が異なる複数の稲で絵柄を描く「おやま田んぼアート」の田植え体験が4日、小山市内で行われた。JRグループと地域が協力して推進する来春の大型観光企画「DSC」に向けた「DSC」の一環でもあり、同市白鳥の渡良瀬遊水地会場には県内外の家族連れ約300人が来場した。



この田んぼアートは市内4会場を実施され、今年はスポーツをテーマとしたデザインが中心。渡良瀬遊水地会場には5品種の稲で描かれたサンダー日本代表の本田圭佑選手デザインの7月ごろに登壇する予定。

参加した子どもたちは足を濡らしながら、約7300平方メートルの水田に丁寧に苗を植えていった。同市花垣町の小学3年生、香山航太朗さん（8）は「足が汚れたけど楽しかったです。早くデザインができ上がるのを見たいです」と笑顔で話した。